

堀内先生講座資料（2025年12月21日）

小さな空

作詞 武満 徹

作曲 武満 徹

1. 青空みたら
綿のような雲が
悲しみをのせて
飛んでいった
（リフレイン）
いたずらが過ぎて
叱られて泣いた
こどもの頃を憶い（おもい） だした
2. 夕空みたら
教会の窓の
ステンドグラスが
眞赫（まっか）に燃えてた
3. 夜空をみたら
小さな星が
涙のように
光っていた

隠れんぼう

雨空を、すばらしい青空にする。角砂糖を、空から墜ちてきた星のカケラに変える。五本の指を五本の色鉛筆にして、風の色、日の色をすっかり描きかえる。庭にチョコレートの木を植える。どんなありえないことだって、幼いきみは、遊びでできた。そうおもうだけで、きみは誰にでもなれた。左官屋にだって。鷹匠にだって。「ハートのジャック」にだって。

できないことができた。難しいことだって、簡単だった。遊びでほんとうに難しいのは、ただ一つだ。遊びを終わらせること。どんなにたのしくたって、遊びはほんとうは、とても怖いのだ。

きみの幼友達の一人は、遊びの終わらせかたを知らなかった。日の暮れの隠れんぼう。その子は、おおきな銀杏の木の幹の後ろに、隠れた。それきり、二どと姿をみせなかった。

銀杏の木の後ろには、いまでもきみの幼友達が一人、隠れている。